

平成18年1月17日

日本学術振興会
プロセスシステム工学第143委員会
委員長 小野木 克明

プロセスシステム工学第143委員会
第156回委員会・平成17年度第5回研究会 開催通知
(143委員会ホームページ <http://jsps143.pse.nuce.nagoya-u.ac.jp/>)

1. 日時：2006年2月3日(金) 13:00~16:50 委員会・研究会
17:00~19:00 懇親会

2. 場所：弘済会館 (東京都千代田区麹町5-1/電話：03-5276-0333)
(交通：JR中央線・地下鉄丸の内線「四ッ谷駅」下車徒歩3分)

3. 委員会：(13:00~13:10)

4. 研究会：(13:10~17:00) テーマ：「化学産業の将来展望とPSEの今後の展開」

13:10~14:10 「最近の化学業界の技術開発動向」

三菱化学(株) 田中 栄司 氏

<概要>原油価格高騰等のエネルギー事情の急激な変化、地球温暖化に対する環境意識の高まり、情報電子産業に代表される産業の高度化を受けて、素材、材料を提供している化学業界への要求も大きく変化してきている。それらに対応した最近の化学業界の技術開発動向に関し述べたい。

14:10~15:10 「プロセスオートメーションの10年後に向けて」

横河電機(株) 永島 晃 氏

<概要>世界を分断していた多様な障壁が消え去る中で、グローバルで厳しい競争の時代が出現し、確実な生産と同時に、生産物や生産能力の柔軟な変更・成長が要求されています。さらに21世紀に入ると、生産や製品自体の安全・安心の実現、地球環境への優しさなどへの配慮が要求されてきました。この状況を抜本的に解決するために、将来のあるべき姿から考えた、4つのイノベーション：①フィールドワイヤリング、②デジタルオペレーション、③マイクロプラント、④ユビキタスコンピューティングを提起し、その実現に向けた取り組みについて述べたい。

15:10~15:30 コーヒーブレイク

15:30~16:30 「プロセスシステム工学の飛躍をめざして」

京都大学 長谷部 伸治 委員

<概要>プロセスシステム工学の研究対象は、現在分子領域から地球環境・エネルギー問題まで拡大してきている。また化学プロセスにおいても、個々の機器の定常最適化からプロセス全体の動的最適化まで、その対象を拡大してきている。そして、現在プロセスシステム工学には、より対象に深く入り込んだ研究の推進や、現実規模の問題に適用可能な手法の開発を要求されてきている。このような状況を鑑み、第7期においては、以下の4項目からなる活動案を提示した。1) 大規模問題のモデル化と解法に関する研究、2) プロセス・プロダクト合成手法に関する研究、3) エネルギー問題・環境問題に対するモデリング、最適化に関する研究、4) 異分野研究者との共同研究の推進。本報告では、これらの内容について説明し、次期活動に対する委員各位と建設的な意見交換を行いたい。

16:30~16:50 総合討論

5. 懇親会：(17:00～19:00)

<追記>

準備の都合がありますので、出欠をご記入の上、1月31日(火)までにご回答下さい。
懇親会は、会費 5,000 円とさせていただきます。